

十和田市の子どもたちの学力と生活

～平成31年度全国学力・学習状況調査の結果概要から～

令和元年9月19日

十和田市教育委員会

1 調査の目的

本調査の実施主体は国です。本市では、市の児童生徒の学力や学習状況を分析・調査し、教育施策の成果と課題を検証することで、施策の見直しと改善を図るとともに、各学校が、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるために本調査に参加しています。

2 調査の対象及び内容

(1) 対象学年と実施した学校数・児童生徒数（当該学年の全児童生徒対象）

	市立学校数	実施した学校数	実施した児童生徒数
小学校第6学年	16校	15校	464人
中学校第3学年	9校	8校	444人

※実施しなかった学校は、対象児童生徒の在籍無しのため。

(2) 児童生徒に関する調査の内容

① 教科に関する調査

ア 国語，算数・数学，英語（中学校のみ）

① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

調査問題は、上記①と②を一体的に問う内容となっている。

② 質問紙調査

学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する内容

3 調査日 平成31年4月18日(木)

4 調査結果の概要

(1) 教科に関する調査

国語と算数・数学，英語（中学校のみ）について，本市の状況をお知らせします。

① 国語

ア 小学校

全国平均及び県平均を上回っています。設問別にみると、以下の設問で県平均を下回っています。

【県平均を下回る設問の趣旨】

・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。

イ 中学校

全国平均及び県平均とほぼ同じ状況です。設問別にみると、以下の設問で全国や県の平均を下回っています。

【全国平均、県平均ともに下回る設問の趣旨】

・封筒の書き方を理解して書く。

② 算数・数学

ア 小学校

全国平均及び県平均を上回っています。設問別にみると、以下の設問で全国平均を下回っています。

【全国平均を下回る設問の趣旨】

・資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述できる。
・示された除法の式の意味を理解している。

イ 中学校

全国平均及び県平均とほぼ同じ状況です。設問別にみると、以下の設問で全国や県の平均を下回っています。

【全国平均、県平均ともに下回る設問の趣旨】

・数の集合と四則計算の可能性について理解している。
・簡単な場合について、確率を求めることができる。
・事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。
・証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している。
・結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見いだし、説明することができる。
・資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる。
・問題解決をするためどのような代表値を用いるべきか判断することができる。
・与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉えることができる。

【県平均を下回る設問の趣旨】

・簡単な連立二元一次方程式を解くことができる。
・反比例の表から、 x と y の関係を式で表すことができる。

③ 英語（中学校のみ）

全体的には、全国平均をやや下回り、県平均とほぼ同じ状況です。設問別にみると、以下の設問で全国や県の平均を下回っています。

【全国平均、県平均ともに下回る設問の趣旨】

・語と語の連結による音変化を捉えて、情報を正確に聞き取ることができる。

- ・ 日常的な話題について、情報を正確に読み取ることができる。
- ・ 書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や書き手の意見などを捉えることができる。
- ・ 文の中で適切に接続詞を用いることができる。
- ・ 一般動詞の1人称複数過去時制の肯定文を正確に書くことができる。
- ・ 与えられた情報に基づいて、3人称単数現在時制の肯定文を正確に書くことができる。
- ・ 与えられた情報に基づいて、一般動詞の3人称単数現在時制の否定文を正確に書くことができる。
- ・ 与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことができる。

【全国平均を下回る設問の趣旨】

- ・ まとまりのある英語を聞いて、必要な情報を理解することができる。
- ・ 聞いて把握した内容について、適切に応じることができる。
- ・ まとまりのある文章を読んで、語のあらすじを理解することができる。

【県平均を下回る設問の趣旨】

- ・ まとまりのある英語を聞いて、話の概要を理解することができる。

(2) 質問紙調査

質問項目は多岐にわたっています。その中から主に生活の諸側面についての結果を、全国や県の平均と比較しながらお知らせします。参考として平成30年度の状況を（ ）内に示しています。

なお、文章内の表記については、本市の数値を全国及び県の平均値と比較した時に、0～±2.5%では「ほぼ同じ」、±2.5%～±5.0%未満では「やや多く」「やや少なく」など、±5.0%以上では「多い」「少ない」などの表現を用いています。

① 朝食

- 朝食を毎日食べている小学生は全国及び県とほぼ同じで、中学生は全国及び県よりやや多く、昨年度と比較すると、小学生はほぼ同じで、中学生は増えています。

項目	小学生	中学生
○朝食を毎日食べている。	約89%(約88%)	約86%(約82%)

② 読書

- 普段1日当たり30分以上読書（教科書や参考書、漫画や雑誌を除く）している小学生は全国よりもやや多く、県とほぼ同じで、中学生は全国及び県とほぼ同じで、昨年度と比較すると、小学生は増え、中学生の減少が目立ちます。

項目	小学生	中学生
○学校の授業時間以外に、普段1日当たり30分以上読書している。	約44%(約41%)	約29%(約41%)

③ 家庭学習

- 家で学校の宿題をしている小学生は、全国・県とほぼ同じで、中学生は全国より多く、県よりもやや多いです。
- 普段1日当たり1時間以上勉強（学習塾や家庭教師の時間も含む）している小学生

は、全国より多く、県とほぼ同じで、昨年度より増えています。中学生は、県とほぼ同じですが、全国よりやや少なく、昨年度と比べ減少が目立ちます。

項 目	小学生	中学生
○学校の授業時間以外に、普段1日当たり1時間以上勉強している。	約72% (約66%)	約66% (約78%)

④ 地域の行事

- 地域の行事に参加している小学生は、全国より少なく・県よりやや少ない状況で、昨年度より増加が目立ちます。中学生は全国・県とほぼ同じで昨年度より増えています。

項 目	小学生	中学生
○今住んでいる地域の行事に参加している。(どちらかと言えば参加しているを含む)	約62% (約49%)	約49% (約44%)

⑤ 自分のよさ

- 自分にはよいところがあると思っている小学生は、全国より多く、県とほぼ同じで、昨年度より若干減っています。中学生は全国より多く県よりやや多い状況で、昨年度より減っています。

項 目	小学生	中学生
○自分にはよいところがあると思っている。(どちらかと言えば思っているを含む)	約86% (約87%)	約79% (約82%)

⑥ 将来の夢

- 将来の夢を持っている小学生は、全国より多く、県とほぼ同じで、昨年度より若干減っています。中学生は全国より多く、県よりやや多い状況で、昨年度より減っています。

- 人の役に立つ人間になりたいと思っている小・中学生は、全国・県とほぼ同じで、小学校は昨年度より若干減り、中学校は同じです。

項 目	小学生	中学生
○将来の夢や目標を持っている。(どちらかと言えば持っているを含む)	約90% (約91%)	約81% (約84%)
○人の役に立つ人間になりたいと思う。(どちらかと言えば思うを含む)	約95% (約97%)	約96% (約96%)

⑦ 授業の理解

- 算数・数学の授業内容を理解している小・中学生は、全国とほぼ同じで県よりやや少なく、昨年度より小学生は減り、中学生は増えています。

- 国語の授業内容を理解している小学生は全国及び県とほぼ同じで、中学生は、全国より多く県よりやや多い状況です。

- 英語の授業内容を理解している中学生は、全国及び県とほぼ同じです。

- 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思っている小学生は、全国よりやや多く、県とほぼ同じで、昨年度より減っています。中学生は、全国より多く、県よりやや多い状況で、昨年度より減っています。

項 目	小学生	中学生
○算数・数学の授業の内容がよく分かる。(どちらかと言えば分かるを含む)	約82% (約85%)	約76% (約73%)
○国語の授業の内容がよく分かる。(どちらかと言えば分かるを含む)	約87% (-)	約84% (-)
○英語の授業の内容がよく分かる。(どちらかと言えば分かるを含む)		約66% (-)

○話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。(どちらかと言えば思うを含む)	約78%(約86%)	約78%(約83%)
--	------------	------------

5 今後の対応

- (1) 学力に関する調査では、小学校では、国語及び算数ともに、全国平均及び県平均を上回るという結果になりました。中学校は、全体的に全国平均及び県平均とほぼ同じ状況となっています。

このことは、市内各小・中学校で、基礎的・基本的な知識や技能の定着を重視するとともに、思考力・判断力・表現力等の育成を図るための教育活動を継続的に実施してきた成果と考えられます。

特に、小学校においては、国語及び数学のすべての評価の観点の結果から、また、中学校においては、国語の「言語についての知識・理解・技能」を除く観点、数学の「数学的な見方や考え方」、英語の「外国語理解の能力」の結果から、児童生徒の主体的な学習態度と基礎的な知識・技能の定着を重視した指導の効果がうかがわれます。

しかし、小・中学校ともに個々の問題で見ると、全国・県ともに正答率が低く本市の児童生徒も同様の正答率となっている問題や、全国・県に比べてやや低い正答率となっている問題など、さらなる向上のためには、改めて各教科での指導内容を吟味して定着を図っていくことも必要と考えられます。

市教育委員会では、特に学力の向上について、他の調査結果（県学習状況調査、CRT等）と併せて、実態と課題を明確にし、具体的な指導の手立て等を学校に提供していくとともに、授業の理解度と学習内容の定着を高めるため、引き続き次の点を重点として取り組んでまいります。

「授業の充実」に向けて

- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- 教材研究の深化と指導方法の工夫
- 個に応じた指導の充実
- 指導と評価の一体化
- 学習環境づくりと学習習慣の確立

- (2) 児童生徒の生活の諸側面に関する調査では、概ね昨年度同様に、全国・県の実態とほぼ同じような生活習慣や生活リズムで日々の生活を送っており、自己有用感や夢・目標をもち学校生活を送っていることが見受けられます。このことは、市内各小・中学校で、自校の調査結果の分析と考察を的確に行い、文部科学省の報告書や他の調査結果等を参考にしながら、学校での教育活動はもとより、地域・家庭と連携した児童生徒の健やかな成長を育む取組の成果だと思われれます。

市教育委員会は、今後も、児童生徒が学力のみならず、望ましい生活習慣や生活リズム等を身に付け、夢・希望・志の実現に向け、健やかに成長できることを願い、地域・家庭と連携しながら教育活動の一層の充実に取り組んでいけるよう、学校を支援していきます。